

Tobu通信

鳥取県教育委員会事務局
東部教育局
〒680-0061鳥取市立川町六丁目176番地
東教発 R 2. 1 1. 2 No.164
<https://www.pref.tottori.lg.jp/t-kyoiku/>

職員が相談し合える関係づくり ～協働ペアと互見授業を活用して～

鳥取市立宝木小学校



宝木小学校では、「刺激を受け合い、授業力だけでなく児童との関わり方や日々の声かけなど教師としての資質・能力を高めていけるようにすること」「若手教員と経験豊かなベテラン教員が、互いに授業を見合って学び合うこと(互見)」を大切にしています。そのための工夫として、「協働ペア」と「互見授業」に取り組んでいます。

協働ペア

- ◆基本は、若手とベテランで組む
- ◆経験に基づく意見や新しいアイデアの共有により、児童に合った教育活動に取り組むことができる
- ◆異動があったとしても、取組を引き継いでいける



本年度は、1・2年、4・5年(複式学級のため担任と非常勤講師)、3・6年、英語専科教員・エキスパート教員(外国語・外国語活動)をペアにしています。校務分掌も可能な限り、このペアを生かして複数人で担当し、ベテランからの声かけにより若手も意見を出しやすい関係をつくっています。

互見授業の約束

- ◆1週間に1回を目標に授業を見に行き、直接、感想を伝える
- ◆ベテランは公開に努めるとともに、積極的に見に行く
- ◆必要があれば、級外の先生に補欠対応をお願いする
- ◆どの学級・学年を見てもよい

一人の持ち授業時数を25時間程度としています。週1時間は互見に出かけられるように研究主任が声かけをして活性化を図ります。その成果として、これまで以上に全校児童の様子を全職員が共有できるようになりました。



一緒に教材研究し、互見で学び合う



お悩み相談タイム

放課後の職員室では、授業のこと、その日の出来事や児童の様子などについての会話がよく聞かれます。授業をタブレットで撮影し、展開や支援について相談することもあります。



参観しながら支援も行う

教わったことをすぐに実践し、その都度助言を受けられることで、自らの授業力、学級経営力が高まっているという実感があります。学校全体としても「協働ペア」「互見授業」の実践に手応えを感じているところです。

宝木小学校は、「小規模校では、意識して同僚に声をかけていかないと一人で抱え込んでしまいがちになる。だからこそ、相談し合える関係づくりが大切。」という校長先生の思いを、「協働ペア」と「互見授業」の取組により実現していこうとしています。それぞれの学校の強みや課題を明確にして教育活動を進めること、教員一人一人が、「指導力を高めたい。」「同僚とともに子どもたちを伸ばしていきたい。」という意欲をもって取り組むことが、OJTを推進する上で求められます。

国の少人数学級推進に向けて

局長 長谷川 隆

令和3年度の概算要求において文部科学省は、新型コロナウイルスへの対応や働き方改革を一層進めていくための事業等を盛り込んでいますが、その中でも注目しているのが、少人数学級の推進です。教育再生実行会議の中でも、新型コロナウイルス対応、さらにはGIGAスクール構想を推進するためにも、少人数学級の推進を検討すべきと提言しています。

ご存じの通り本県では、平成24年度から小中学校全学年で少人数学級を導入しています。実はそれ以前にも本県では、小1プロブレム、中1ギャップの解消等のため、小学校1・2年生、中学校1年生で少人数学級を実施していました。しかし、国の学級編制基準の弾力化の流れ、市町村のご協力、そして学校現場からの大変熱心な要望等を踏まえ、全国に先駆ける形で他の学年にも少人数学級が拡充されました。そして当時、少人数学級の効果として期待されていたのが、「子どもと向き合う時間を確保することができる」ということでした。

あれから9年目を迎えています。社会の状況も加速度的に変化してきましたし、検討される少人数学級はその在り方も含め、今後どうなるのかまだわかりません。ただ、本県がその先進県として国の少人数学級推進のために、果たすべき役割もあるのではないかと思います。そして、新しい時代が少人数学級に期待する効果についても、改めて考えていく必要があるのではないのでしょうか。



子どもたちの不安や変化を見逃さないために

今年度も折り返しを過ぎました。残り5か月の学校生活において、コロナ禍の中、ストレスを抱えながらも頑張る子どもたちの見立てを誤り、不安や変化を見逃してしまうことのないようにしたいものです。そのためには、些細なことであっても、子どもに関する情報を素早く組織全体で共有し、学校組織として見立てていくことが大切です。校内の状況を再点検し、さらに「チームとしての学校」を磨き上げていきましょう。

個々の教員の見立ての誤り

「どちらにも
非があるから
お互い様だ」
誤認識



「あの子は足
が速いから、
みんなに認め
られている」
先入観

「いつも一緒で
楽しそうにして
いるなあ」
不十分な
アセスメント

「アンケートに
何も書かれてい
なかった」
安易な想定

「この前関係
修復の場を設
けたから問題
ないはずだ」
危機認識
の不足

学校組織としての問題点

①小さなことでも相談していますか？

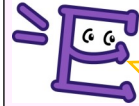
- 「何を」「どの程度」相談していいかわからない。
- 相談する時間を確保できない。
- 話すタイミングを逃してしまう。

②見立てのちがいやずれをそのままにしていますか？



「最近の〇〇くん、いつもとちがう
感じがするんですけど…」
違和感

「私の授業の時には特に変わった
ことは感じなかったし大丈夫
だと思うけど？」



「そうですか。ではやはり私の思い
過ぎだったのですね…」
見逃し

不安や変化を見逃さないための「組織による見立て」の工夫

①担当クラス以外についても、積極的に話題にする。

他のクラスについては、正直「言いにくい」という思いをもちてしまいがちだが、組織で見立てるためには、他の教員からの見立てや情報が欠かせない。

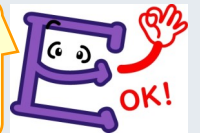
②学年会等で「問題は起こっていないが、気になる子ども」の情報を共有する時間をもつ。

問題行動や不登校の未然防止になることはもちろん、お互いの子どもを見る目が豊かになっていく効果も期待できる。

③お互いを見立てをすり合わせる。

小さなことでも自分の見立てを伝える。子どもを様々な角度から見ようとすることは、お互いを見立ての精度を上げることにつながる。

どんな些細なこ
とでも抱え込まず
に、まずは声に出
してみましょう。



今、特に気に
かけたいこと

自死の サイン と対応

全国の小中高校生の自死者数は、例年300件前後にも上ります。自死はある日突然何の前触れもなく起こるといよりも、徐々に危険な心理状態に陥っていくものです。下のようなサインを確実に見取り、組織的に対応していきましょう。

【気を付けたい子どもたちのサイン例】

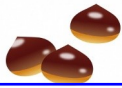
- できていたことが急にできなくなったり、興味を失ったりする。
- 集中力が低下したり、成績が急に落ちたりする。
- 不安やイライラが増し、投げやりな態度が目立つようになる。
- 過剰に明るく元気に振舞っているように感じられる。
- 健康や自己管理が疎かになり、身体の不調を訴えるようになる。
- 年下の子や動物を虐待したり、過度に危険な行為に及んだりする。
- 別れの用意（整理整頓、大切なものを人にあげるなど）をする。

【TALKの原則で対応】

- Tell** : 言葉にして心配していることを本人に伝える
- Ask** : 気持ちについて率直に尋ねる
- Listen** : 辛く苦しい気持ちに寄り添い本人の気持ちを受け止める
- Keep safe** : 安全を確保し、一人にせず、他からの適切な援助が受けられるようにする

「専門性」とは「自分のできないことが何かを知っていること」とも言われます。教員ができること、できないこと、してはいけないこと等、子どもを守る視点から「限界」を見極めていく必要があります。一人で抱え込むことなく積極的に周囲や関係機関の力を借り、連携することが大切です。役割分担に基づきお互いに支え合う「チームとしての教員集団」の姿は、子どもたちに安心感を与えます。

社会教育
コーナー



地域ので子どもたちの成長を

鳥取市立岩倉小学校の学校運営協議会では、「岩倉地区の人と人とのつながりを広げよう～地域支援による学力・体力の向上をめざして～」を目標に、地域ので子どもたちを支える体制づくりに取り組んでいます。そして、本年度は生活時程を工夫し、地域の方が中心となり「放課後チャレンジ教室」を開催しています。

放課後チャレンジ教室



学校運営協議会で熟議

昨年度から学校の課題である学力・体力を向上させるにはどうすればよいかを協議し、想いを共有してきた。



取り組む内容は、学校の宿題は勿論、個別の自主学习など様々ですが、常時10名程度の地域の方が、子どもたちの学習を支えています。約140名の児童が学年ごとに曜日と時間を決め、学習しています。現在は、学習中心ですが、今後は体力の向上や地域の方の得意なことなども実施する予定です。

学校の工夫

月曜日と水曜日の掃除・帯活動を廃止し、放課後の時間を確保した。

学校のメリット

放課後の時間に学年会や研修を実施できる。

放課後チャレンジ教室の実現

地域の働きかけ

地域コーディネーターと協議会委員が幅広いネットワークで地域の方に声をかけた。

地域のメリット

子どもとの関係づくりや住民同士のネットワークづくりができる。

～感想～

【子ども】

- ・安心して学習ができる。
- ・わからないことを教えてもらえて嬉しい。

【地域の方】

- ・子どもがわかってくると嬉しい。
- ・子どもと顔のわかる関係ができる。

【教職員】

- ・宿題の提出率がアップした。
- ・放課後の時間が確保でき、会議が充実した。

【保護者】

- ・とても楽しそうに行っており、勉強もできるのでありがたい。
- ・地域の方に放課後チャレンジ教室や下校の見守りをしていただき、安心して生活できている。

コミュニティ・スクールに取り組んでいる学校では、学校の課題について学校運営協議会で熟議し、地域でできることを模索しながら活動を進めています。「地域とともにある学校づくり」を実現するためにも、学校と地域が一体となり、学校の課題を校内だけにとどめず、地域と共有し解決していくことが大切です。

学事コーナー

給与の確認をしましょう

～自分の給料・諸手当を
すぐに答えられますか？～

「給与・勤怠管理システム（COMPANY）」導入後、システム設定誤り、入力ミス等により、給与の誤支給や未支給、遡っての返納等の事案が発生しています。

給与の誤支給等に早く気付くためにも、月に1度は給与明細を開いて確認する習慣をつけましょう。あわせて「最近、通帳の手入れをしていないな。」という方は、早急に手入れをし、給料日後には、必ず入金の確認をしましょう。



《次の表をもとに、金額を確認してみましょう。》

給料	教育職 級 号給 (行政職) 円
教職調整額	円
管理職手当	円
義務教育等教員特別手当	円
扶養手当	円
住居手当	円
通勤手当	円

給料月額×4%

支給要件が変更になった場合は申請が必要です。(15日以内に)

(例)

- ・被扶養者が就職した。
- ・家賃額が変わった。
- ・住所変更に伴い通勤経路等が変わった。

手続きは、各自で行いましょう。なお、申請の仕方が分からない場合は、管理職及び学校事務職員へご相談ください。

義務教育諸学校の教育職員に優秀な人材を確保するために設けられた手当です。教員の給与水準を特別に引き上げることを目的として全教員に支給されています。



このほか、実績によって、特殊勤務手当や時間外勤務手当が支給されます。また、児童手当は、支給月(6月・10月・2月)に給与と併せて支給しています。これらの手当もその都度確認しましょう。